学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報
今月のトピック紹介版

10月号

【令和5年度　全国学力・学習状況調査の出題から見える指導のポイント】
中学校外国語科（英語）～領域を統合した問題から～

保護者や地域の方と信頼関係を築くために①

特別支援教育ほっと通信
働く上で「必要な力」「求められる姿」

【西部地域開催】
鳥取県エキスパート認定教員による公開授業の御案内

すべての子供に「できた」「わかった」を！

【令和5年度　全国学力・学習状況調査の出題から見える指導のポイント】

中学校外国語科（英語）～領域を統合した問題から～

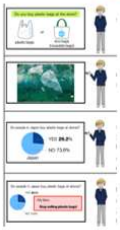
西部教育局
お役立ち情報
令和5年10月号

子供たちの英語力向上に向けて、**言語活動の充実**が求められています。今年度の全国学力・学習状況調査「中学校　英語」では、**領域を統合した問題**が複数出題されました。その中から、【大問8】「読むこと」と「書くこと」の領域を統合した問題に焦点を当てて、指導のポイントをお伝えします。

令和5年度全国学力・学習状況調査で出題された領域を統合した問題

【大問１】（話すこと調査）
聞いたことについて自分の考えを述べ合う。

【大問２】（話すこと調査）
聞いたことについて自分の考えを話す。



【大問８】
読んだことについて自分の考えを書く。

中学校外国語科（英語）の五つの領域

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域にわたる活動をできるだけ関連させながら指導計画を作成することが大切です。

五つの領域別の目標を踏まえながら、**複数の領域を効果的に統合した言語活動**を行うことが大切であると示されています。

「中学校学習指導要領
解説　外国語編」
（p.17～、p.82～参照）

【大問8】　領域：「読むこと」「書くこと」

読んだことをもとに自分の考えとその理由を書くことができるようにするために・・・

読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現することが重要です。

＜言語活動例＞

- 教科書に取り上げられている話題に関する自分の意見や感想などを、スピーチの形式や、新聞やホームページなどへの投稿文の形式で書く活動
- 他教科等でも扱われる自然環境、世界情勢、科学技術、平和などの話題に関して読んだ内容を踏まえて、内容に関する感想、賛否やその理由などを書く活動

言語活動を行うに当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを**話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動**を行うことが大切です。

＜授業例＞（全国学力・学習状況調査報告書「中学校英語」より抜粋）

- 書いた英文を生徒同士で読み合った後、内容や表現の改善点を引き出す指導

What are the good points of your partner's writing?

書き手の意見に対する自分の考えが最初にしっかり述べられていたので、内容が理解しやすかったです。私は述べていなかったので、真似したいと思いました。

教師

Very good.　How did she express it in English?

She used "I agree with you."

It's a good expression to show that you agree with someone.　Did anyone use different expressions?

I wrote "I think so, too."

書いた英文に対して教師がフィードバックを与えたり、他の生徒からコメントをもらったりすることも大切です。

「中学校　英語　報告書」

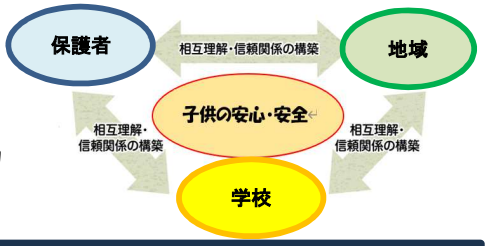
今回の調査の解説と授業アイデア例が掲載されています。こちらもぜひ参考にしてみてください。

複数の領域を効果的に関連付けた言語活動に取り組んでいきましょう！

保護者や地域の方と信頼関係を築くために①

西部教育局
お役立ち情報
令和5年10月号

学校には、保護者や地域の方（以下「保護者等」という。）から日々、電話や来校などにより様々な情報が寄せられ、その中には学校に対する意見や要望等があります。最初の学校の対応によって、その後の流れが大きく変わることがあります。本号では、保護者等からいただいた意見や要望等を適切に受け止めるための初期対応のポイントをお伝えします。



初期対応のポイント

「傾聴」による受け止めを心がける

◆受容・傾聴・共感が基本。
誠意をもって「聴く」姿勢を大切にしながら、事実関係と訴えの主な内容を把握する。

「それは大変でしたね。」
「～してくださって、ありがとうございます。」

◆相手の話を遮らず、こちらの意見や考えは、相手の話を最後まで十分に聴いた後で伝える。

正確な記録を残す

◆意見等の背景や理由についても把握に努め、さらに学校が保護者等へ説明した内容についても記録する。その際に、**「いつ、どこで、だれが、何を、なぜ、どのように」など客観的な事実**を正確に残す。

◆話の内容を要約して返すことで、相手の要望等と自分の捉えにズレがないかを確認する。

「つまり、～ということ（お考え）なんですね。」

回答や返事は事実確認後に行う

◆事実が明らかでない場合や対応の判断がつかない場合は、即答することはできるだけ避ける。その場合、事実確認や対応を検討することを伝え、期限を決めて回答をする。

◆謝罪すべき部分は心を込めて謝罪する。
その際、何に対する謝罪なのか（心理的事実か客観的事実か）を明確にする。

心理的事実には、最初に謝罪

（例）
「そのような気持ちにさせてしまったことについて申し訳ありません。」
「学校の説明がわかりにくいものだったかもしれません。申し訳ありません。」

客観的事実を調査

（例）
「事実を確認して、改めて回答させていただきます。」
「学年や管理職と確認して対応の方法を検討します。」

面談は可能な限り、複数で対応する

◆原則として、最初から管理職が対応することは避け、まずは担任や担当等で対応する。記録係や連絡係などの役割分担をすることで、落ち着いて面談を行うことができ、複数の視点で意見等を把握することができる。

初期対応の記録をもとに、管理職へすぐに報告をすることやその後も個人ではなく組織で対応することが必要です。
組織対応を円滑にするために、どのような組織で関わるかを**調整**し、みんなで**理解**し合い、解決できたかを**確認**することで、より良い対応となります。詳細は次号でお伝えします。

参照『保護者及び地域住民と学校とのより良い関係づくりのために～学校への意見や要望等への対応～』
平成28年7月鳥取県教育委員会